

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	シャープーボンド#650
会社名	シャープ化学工業株式会社
住所	大阪府堺市西区築港浜寺西町 12-1
担当部門	品質保証部
電話番号	072-268-0321
制定・改訂	2022年7月1日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体	区分2
-------	-----

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない(分類対象外)
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／皮膚刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分2
標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分3（気道刺激性、麻酔作用）
標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	区分1（神経系）
誤えん有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）	区分2
水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

【絵表示またはシンボル】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

引火性の高い液体及び蒸気

皮膚刺激

強い眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（神経系）の障害

水生生物に毒性

【注意書き】

吸入すると中毒その他健康障害を起こす恐れがありますから、取り扱いには下記の注意を守って下さい。

《安全対策》

全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

防爆型の電気機器／局所排気装置を使用し、粉じん／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸引を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

容器は丁寧に扱い、内容物をこぼさないこと。

取り扱い後は、手をよく洗う事。口をすすぐこと。

環境への放出を避けること。

《応急措置》

火災の場合：消火する為に、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を使用すること。

物的被害を防止するためにも流出したものを吸収する事。漏出物を回収すること。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗う事。皮膚刺激が生じた場合：医師の診断を受けること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う事。直ちに医師の診断を受けること。

吸入した場合：気分が悪い時は、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

汚染された衣類を直ちに脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

《保管（貯蔵）》

容器を密閉しておくこと。日光から遮断する事。換気の良い場所で保管すること。

(5～35℃)

子供の手の届かないところに置くこと。

《廃棄》

容器は、中身をすべて使い切ってから廃棄すること。

内容物/容器を、許可を受けた専門業者に委託し廃棄すること。

*接着用途以外には絶対に使用しないこと。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険性：

国/地域情報 消防法危険物 第四類第一石油類 非水溶性 危険等級Ⅱ

3. 組成及び成分情報

化学物質・混物の区分 混合物
 化学名又は一般名 天然ゴム系接着剤

成分及び濃度又は濃度範囲

成分	CAS NO.	含有率 (%)	官報公示整理番号 (化審法)
ノルマルヘキサン	110-54-3	82	2-6

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所へ移動して寝かせる。頭痛等の異常がある場合、速やかに医師の診断を受ける。
眼に入った場合	流水にて最低 15 分間洗眼した後、異常のある場合は直ちに眼科医の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	すぐに拭き取り、石鹼水及び水で洗い流す。炎症等が出た場合、速やかに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	多量の水を飲ませ吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。 他人が無理に吐かせてはいけない。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	めまい、頭痛、吐き気
応急措置をする者の保護	知見なし
医師に対する特別注意事項	知見なし

5. 火災時の措置

使用可能消火剤	小火災-粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂 大火災-散水、噴霧水、一般の泡消火剤
使用してはならない消火剤	棒状注水
火災時特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性のガスを発生するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気
特有の消火方法	付近の着火源を断つ。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行なう者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

風上から消火する。

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、保護具および緊急措置</p>	<p>作業者は適切な保護具(8.ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。</p> <p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。</p> <p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p> <p>関係者以外の立ち入りを禁止する。</p> <p>漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。</p> <p>風上に留まる。低地から離れる。</p> <p>密閉された場所に入る前に換気する。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を避ける。</p> <p>河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。</p>
<p>回収、中和</p>	<p>少量の場合、吸収したものを集める時、清潔な帯電防止工具を用いる。</p> <p>大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。</p> <p>大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑える事ができない恐れがある。</p>
<p>封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>	<p>危険でなければ漏れを止める。</p> <p>漏出物を取り扱う時、用いる全ての設備は接地する。</p> <p>蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>全ての着火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)</p> <p>蒸気発生が多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。</p> <p>関係箇所に通報し応援を求める。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い</p> <p>技術的対策</p>	<p>防爆の電気、換気、照明器具及び防爆用工具のみを使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。</p> <p>周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。-禁煙。</p> <p>「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p> <p>静電気対策のために、装置、機器などの接地を確実に行う。</p>
<p>局所排気・全体換気</p> <p>注意事項</p>	<p>局所排気装置、全体排気装置のある換気の良い場所で取り扱う。</p> <p>眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。</p>

眠気又はめまい、呼吸器の刺激、器官の損傷のおそれがあるので、本製品に接触、吸入、飲み込みをしてはならない。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。
 容器を密閉して、冷暗所、換気の良い所で貯蔵すること。
 酸化剤から離して保管する。
 保管場所は、耐火構造、床は不浸透性のものとし、地下への浸透、外部への流出を防止する。
 指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。
 施錠して貯蔵すること。

8. ばく露防止及び保護措置

物質名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
ノルマルヘキサン	40ppm	40ppm	TLV-TWA 50ppm

設備対策

設備対策:局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
 防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
 「火気厳禁」、「関係者以外立ち入り禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示すること。
 安全管理のため状況に応じて、ガス検知器等を設置する。

保護具

手の保護 保護手袋(耐油性ゴム手袋)を着用する。
 眼の保護 保護眼鏡を着用する。
 皮膚の保護 保護長靴、耐油性(不浸透性・静電防止対策用)前掛け、防護服(静電防止対策用)等
 呼吸器系の保護 有機ガス用防毒、防塵マスクを着用する。
 密閉された場所では送気マスクを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

	内容物	
物理状態	液体(粘調液)	
色	淡黄褐色	
臭い	有機溶剤臭	
融点	データなし	
沸点	68℃	
可燃性	引火性	
爆発下限界及び爆発上限界	1.1%~7.5%	
引火点	-21℃	
自然発火点	220	
分解温度	データなし	
PH	測定できない	
粘度	約 29,000mPa・s	
溶解度	水に不溶	
n-オクタノール/水分配係数	データなし	
蒸気圧	知見なし	
密度	0.62~0.82	
相対ガス密度(空気=1)	空気より大	
粒子特性	該当せず(液体)	
その他	データなし	

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
安定性	通常 of 取扱い条件では安定
危険有害反応性	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	フレイム及びスパーク発生装置から遠ざける。
危険有害な分解生成物	火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。
混触危険物質	強酸類、酸化性物質

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	ノルマルヘキサン	LD50 15800mg/kg
急性毒性（経皮）	ノルマルヘキサン	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	ノルマルヘキサン	LC50 48000ppm
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	ノルマルヘキサン	分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性	ノルマルヘキサン	区分2
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ノルマルヘキサン	区分2
呼吸器感作性または皮膚感作性	ノルマルヘキサン	呼吸器感作性：分類できない 皮膚感作性：分類できない
生殖細胞変異原性	ノルマルヘキサン	区分に該当しない
発がん性	ノルマルヘキサン	分類できない
生殖毒性	ノルマルヘキサン	区分2
特定標的臓器/全身毒性（単回ばく露）	ノルマルヘキサン	気道刺激性、麻酔作用（区分3）
特定標的臓器/全身毒性（反復ばく露）	ノルマルヘキサン	神経系（区分1）
誤えん有害性	ノルマルヘキサン	区分1

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）	ノルマルヘキサン	区分2
水生環境有害性 長期（慢性）	ノルマルヘキサン	区分に該当しない
オゾン層への有害性	ノルマルヘキサン	分類できない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 都道府県条例に基づく焼却処分か、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する
 汚染容器・包装 内容物を使い切ってから分別廃棄する。

14. 輸送上の注意

陸上輸送	消防法、道路法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類	3
国連番号	UN 1133
容器等級	II
特別の安全対策	転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。

15. 適用法令

消防法	危険物第4類第1石油類 危険等級II
労働安全衛生法	表示対象物質：ノルマルヘキサン 通知対象物質：ノルマルヘキサン
船舶安全法	有機溶剤中毒予防規則：第二種有機溶剤 引火性液体類
航空法	引火性液体類
海洋汚染防止法	有害液体物質 Y類：ノルマルヘキサン
化学物質管理促進法	第一種指定化学物質 政令番号 第392号（ノルマルヘキサン）
毒物及び劇物取締法	該当しない

16. その他の情報

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意してください。なお、記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。